

活断層の重点的調査観測の対象選定変更について

平成28年5月11日
地震調査研究推進本部事務局

1. 趣旨

第75回調査観測計画部会（平成28年2月1日）において、平成28年度新たに実施する活断層の重点的調査観測の対象として、富士河口断層帯を選定したところであるが、以下の理由により、日奈久断層帯に変更したい。

2. 選定理由

地震調査委員会では、平成28年4月14日、16日に発生した熊本地方の地震は、それぞれ、日奈久断層帯（高野-白旗区間）、布田川断層帯（布田川区間）の活動によるものと評価した。一連の地震活動は周辺の活動区間にも及んでおり、引き続き、地震活動の推移を注視すべき状況である。

一方、今回活動した活断層の周辺に分布する、日奈久断層帯（日奈久区間）と日奈久断層帯（八代海区間）では、長期評価による将来の地震発生可能性が、ほぼ0% - 6%、及びほぼ0% - 16%と確率が幅広い評価となっている。そのため、可能な限り早急に古地震調査を実施し、より詳細な地震発生可能性の評価を行う必要がある。

さらに、4月14日にM6.5の震源断層となった日奈久断層帯（高野-白旗区間）については、断片的に地表変位が生じたという報告があるが、その詳細な全貌は不明である。

また、日奈久断層帯の強震動評価について、現状では簡便法による予測震度分布や全国地震動予測地図による公表のみであり、詳細な強震動予測は実施されていない。

以上から、日奈久断層帯を対象とした重点的調査観測を実施し、長期評価、強震動予測の精度向上を早急に図る必要がある。

なお、日奈久断層帯（日奈久区間）は、従前から調査観測対象断層とされているため、新たに八代海区間及び高野-白旗区間を重点的調査観測対象として追加し、平成28年度の実施対象を日奈久断層帯に変更したい。

3. 必要とされる調査

前述の通り、日奈久断層帯では過去の活動について詳細が明らかとなっていない。このためトレンチ調査、ボーリング調査、変動地形学的調査等により過去の活動時期、地震時変位量、平均変位速度等の把握を行う必要がある。

また、当断層帯の陸域から海域にかけて、反射法地震探査や微小地震観測等により地下深部における断層の分布状況・形状等を明らかにする必要がある。

さらに、当断層は平野部も通過することから、より高精度な強震動予測が望まれる。強震動の予測には、日奈久断層周辺地域の地下構造と地下における断層形状が大きく影響することから、地下深部における断層の分布状況・形状に加え、当該地域の地下構造についても明らかにする必要がある。

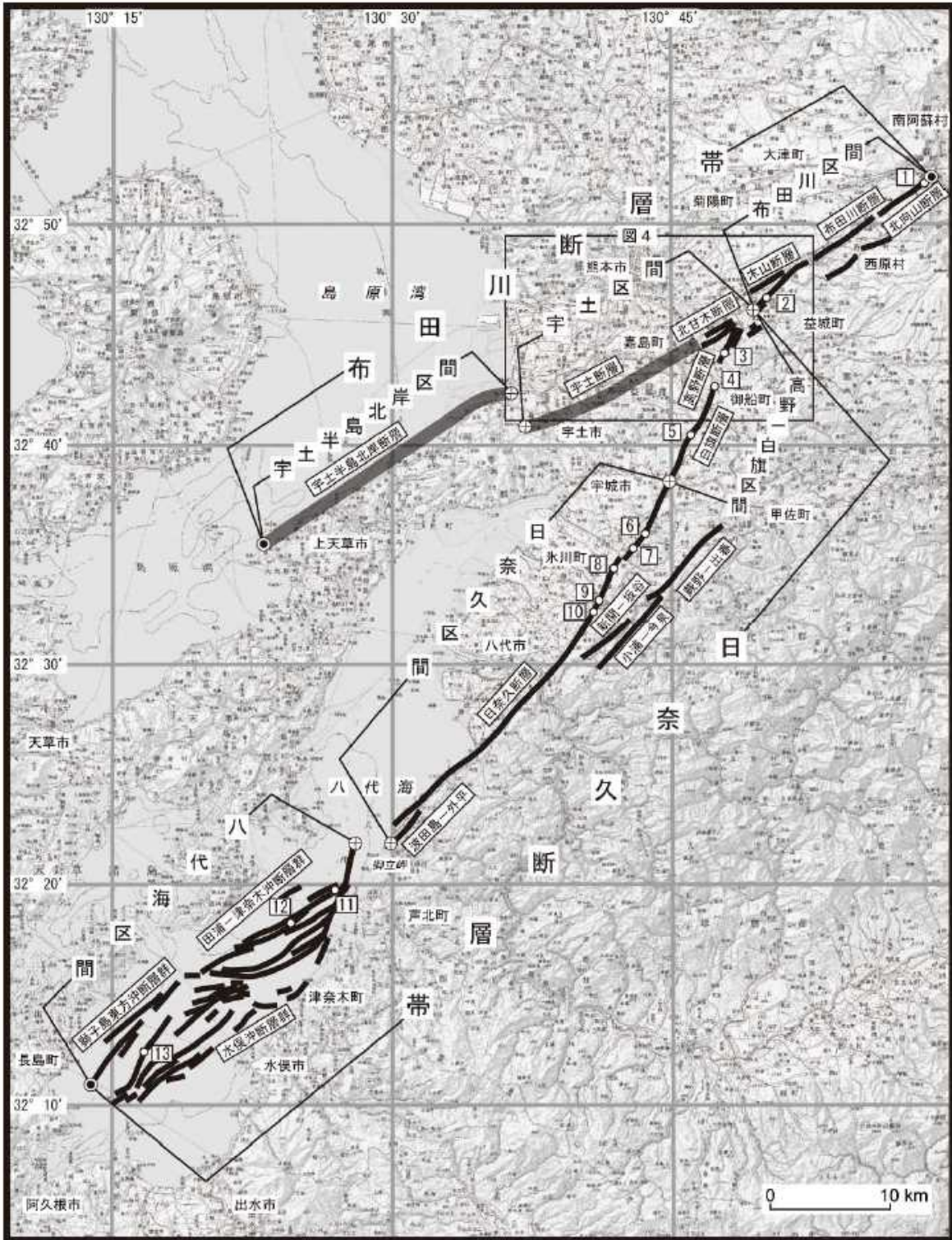


図2 布田川断層帯・日奈久断層帯の活断層位置と調査地点